

令和 6 年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括」



令和 7 年 3 月

宇治市教育委員会

令和6年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括」【宇治中学校ブロック】

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	○全国学テ・府学テの分析・確認 ○ICTの効果的な活用 ○公開授業を含む合同授業研究 ○特別支援教育の支援・手立てを含めた小学校から中学校へのきめ細かな引継ぎ ○研究テーマ「学力(国語力)向上のための、学級経営と授業の改善」の共有	成果	・ブロック間で状況を共有することができた。 ・公開授業をする学校だけではなく、3校で授業づくりをする機会があることで、授業者だけに負担させることがないようにしている。 ・全国学調・学パスの3校の結果を合同研修会で報告し、現状分析ができた。その上で、児童生徒につけさせたい力を提案できた。
			課題 (改善策)	・学テの分析と、小中一貫の取組や内容を一致させたり取り入れたりするのは難しかった。コーディネーター間で各学校を回り、実態を把握することで、小中一貫の取組を考えていきたい。 ・学パスの結果から、心理的安全性には課題が見られた。心理的安全性の成果が出ているところの学級経営の仕方を共有したり、講師を呼んだりして、課題を克服したい。
到達目標 2	連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって	○小中学校間の丁寧な引き継ぎ ○ブロック校長会、教頭会、コーディネーター会議、児童理解部において児童生徒の実態や課題、強み等を交流し、共通した視点での生徒指導・支援の実施 ○各校の授業参観 ○就学前を含む地域の関係機関との連携	成果	・毎年中学校の授業参観、隔年で小学校の授業を参観する機会があり実態を共有することができる。 ・合同研修会で、中学校と代表校(今年度は菟道第二小)の授業参観を行い、それぞれの校種の実践を交流できた。
			課題 (改善策)	・小学校と中学校との交流が教師間で行われているが、児童・生徒間での交流が少ないので、学校間で関わられるような活動を取り入れたい。 ・授業での指導案検討はできたが、それ以外の実態交流までは見られなかった。次年度は、他校種の先生方と交流する機会を多く作っていきたい。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	○コーディネーター会議の定期的な開催 ○小中一貫教育の推進に向け、課題解決に向けた具体的な研究・研修	成果	・定期的にコーディネーター会を開き、研究テーマに向けて見通しをもって連携できた。
			課題 (改善策)	・時間と日程の調整が難しい。検討事項が多いと、なかなか収まり切らないことがあった。別日設定するなどが必要。 ・具体的な取組や方針を、今後も考え続けることが必要である。研究テーマに合った外部講師の活用など、より今に合った取組を考え続けたい。 ・ラーニングコーディネーターが定期的に他校を回り、児童・生徒の様子を見ることができなかったので、年度初めに年間計画を立てる。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	○「小中一貫教育便り」の活用 ○保護者・地域からの意見の収集 ○学校運営協議会・地域団体への積極的なブロックの取組	成果	・小中一貫だより(FUTT)の発行によりブロックの取組を定期的に発信できた。
			課題 (改善策)	・保護者や地域への発信は課題が残った。ホームページや学校だよりなどで、定期的に取組の発信をすることが、周知の第一歩となる。

令和6年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括」【北宇治中学校ブロック】

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	・総会の折に授業参観を行い、各校における授業方法等の工夫の研究や、各校の児童・生徒などの実態を知り、学力の向上や小小連携、小中連携に生かしていく。 ・児童会・生徒会による合同行事や半日入学の取組、小学校での職場体験の実施等により小中連携を推進する。	成果	・児童・生徒の学力実態や課題を明らかにし、小中学校教員が協力して指導方法の改善に取り組むことにより、校種間を超えた理解や連携の意識を高められた。授業参観を実施できた。 ・小6半日体験入学を実施でき、中1ギャップの解消につながられた。 ・新たに中学校の合唱の取組の参観を6年生児童対象に実施した。
			課題 (改善策)	・小中学校の教職員が一堂に会したり、各係会においてそれぞれの実践を交流したりする面では有効な取組になっているが、各校での時間割を調整したり、移動に伴う負担がある中で、小中一貫での取組についてさらに効果的で有効なものになるよう、取組内容の継続と改善と意識づけを図っていく必要がある。
到達目標 2	連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって	・ブロック内の係を、生徒指導係、学力充実係、特別活動係、教育相談係、特別支援教育係、情報教育係に再編し、小中一貫教育に取り組み、ブロック全員の教員が分担して参加する中で、自校の教育に生かしていくとともに、小中での連携を図っていく。	成果	・教育相談や特別支援の担当者が連携を取り、児童の実態把握に努めた。 ・各校の実態を交流することができた。 ・児童会と生徒会が交流することができた。
			課題 (改善策)	・各校での時間割を調整するなど、移動に伴う負担がある中で、小中一貫での取組についてさらに有効なものになるよう、取組内容の継続と改善を図っていく必要がある。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	・校長会を開催し、本年度の本校ブロック小中一貫教育の方針や計画を決定し、それを受けて各校コーディネーター間の連携を図っていく。 ・機能的な組織運営をめざし、年度当初に校長会や企画会議を実施して本年度の小中一貫教育における方針や計画を決定するとともに、各コーディネーター間の連携を密にし、小中一貫教育をさらに有効的なものにしていく。	成果	・教育相談や特別支援の担当者が連携を取り、児童の実態把握に努めた。 ・各校の実態を交流することができた。 ・校長会を毎月開催し、各校の状況の確認等、充実した交流ができた。 ・コーディネーター間において事前に連絡を取り合い、様々な実施計画や運営、総括等について、検討・確認を行うことが出来た。Zoomを使つての打ち合わせは効果的であった。
			課題 (改善策)	・分散型の形式における小中一貫教育がさらに有効なものになるよう研究を進めていく必要がある。また、参加する教員において、さらに効力感が持てる取組にしていく必要がある。 ・中学校ブロックで集まる機会を次年度増やす計画を考えている。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	・「小中一貫教育だより」を学期1回程度発行し、小中一貫教育の取組を保護者、地域に紹介する。	成果	・地域の関係団体と交流する機会を設けた。 ・本年度も、中学入学までの「春休みの宿題」を発行し、取り組む予定である。
			課題 (改善策)	・「小中一貫教育だより」を学期1回程度発行し、小中一貫教育の取組を保護者、地域に紹介する。 ・「家庭学習の手引き」を発行し、保護者の協力を得つつ家庭学習の方法の理解など、学習を充実させることで学力の向上をはかる。

令和6年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括」【横島中学校ブロック】

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと 学びのつながりに関わって	○学力分析を通して授業改善の取組...学力分析部会を通して、児童・生徒の課題を把握し、課題克服に向けての方向性や取組について協議して授業改善に繋げる。 ○アクションプラン推進...国語部会を中心に、「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」を推進していく。 ○小学生の中学校体験入学...中学進学への不安を解消し、中学校生活への見通しを持つために、中学校での授業体験と部活動体験を行う。 ○服のチカラプロジェクト...ブロックの小中学校の生徒会・児童会を中心に、ユニクロの古着回収の活動を行う。	成果	・各校の学力テスト分析結果を交流し、ブロックにおける課題を共有し、学力向上の方向性について検討することができた。 ・ブロックの学力研究員による発表を行い、言語活動の充実や具体的な授業改善の手法についてブロックに周知することができた。
			課題 (改善策)	・授業改善の方向を明確に示しつつ、より一層課題解決に向けて取り組みを進めていく必要がある。 ・具体的な取組について議論し、言語活動を通して国語力の向上とインクルーシブ教育の推進に取り組んでいく必要がある。
到達目標 2	連続性のある子ども理解と生徒 指導に関わって	○生徒指導部会、特別支援教育部会による交流...生徒指導や特別支援教育における児童・生徒理解を深め、小中接続をスムーズにするために情報交流や協議を行う。 ○ICTによる小6出前授業...小中接続をスムーズにさせるため、ラーニングコーディネーターと中学校生徒指導主任が各小学校で、中学入学前の心得や準備等について授業を行う。 ○各校授業参観...各校の授業参観を通して、児童・生徒理解を深め、小中連携をスムーズに行う。 ○夏季研修(講演会の企画)...外部講師を招いて、児童・生徒理解、授業改善や各校の課題解決に繋がる内容についての研修を行う。	成果	・各校の授業参観や、各部会での情報交流を積極的に行うことができ、スムーズな小中接続を目指し、各校の状況を把握することができた。 ・夏季研修において、京都教育大学の鈴木先生に講演頂き、「みんなが参加できる授業・クラスづくりの理念と実践」についてインクルーシブ教育の充実を目指した研修を実施することができた。
			課題 (改善策)	・部会では各学校の情報交流に終始してしまっているので、ブロックの課題解決に向けた協議や検討を活性化させていく必要がある。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職 員の連携と協働に関わって	○合同研修会...横島中ブロックの取組や目指す方向性などの確認や、各部会等の取組の報告等を行う。また、講師を招いてブロックの課題解決に関わる講演会等を実施する。 ○各部会での授業改善・取組改善...学力分析部会、国語部会、ICT推進部会、特別支援教育部会、生徒指導部会、特別活動部会に分かれ、小中一貫教育の視点でそれぞれのグループにおける授業改善や取組の改善に向けて協議や、各校の情報交流を行う。	成果	・定期的に合同研修会を開催することができ、連携を深めることができた。 ・研修会を通して、各校の課題を共有するとともに、指導改善の方向性を確認することができた。 ・インクルーシブ教育推進に向けて研修会を実施し、どの児童・生徒も大切にするという理念を共有することができた。
			課題 (改善策)	・ブロックで共通した取組を実施することを目指し、各部会で改善すべき課題について協議し、全体に周知し、改善の方向性について共有できるように取り組む。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの 輪に関わって	○教職員広報の発行...教職員広報を発行し、小中一貫教育推進に関わる情報を発信し、小中学校の教職員の共通理解を図りながら、取組を推進する。 ○情報発信...小中一貫教育便り「マキシマム」の継続発行(保護者配布・地域回覧)やHPへの掲載、各校の広報誌での小中一貫教育目標やめざす子ども像、取組等の広報や校内掲示等を行い、小中一貫教育に向けた取組や研究を積極的に情報発信する。 ○地域との連携...学校・地域行事で、児童生徒が共に活動したり、交流したりする場面や小中一貫教育の成果を発揮する場面を設定する。	成果	・教職員広報や小中一貫便りを発行することによって、教職員間や保護者にブロックの取組を周知することができた。
			課題 (改善策)	・地域との連携については取組が不十分である。各校のCSコーディネーターとも連携を図りながら、活動や取組の充実を目指す。

令和6年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括」【西小倉中学校ブロック】

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	・学力分析の充実。各校の京都府学力調査や全国学力調査から学力の実態を把握、分析・共有する。 ・指導方針の共有・確立。主体的に取り組む子どもの育成に向けて実践を共有し、指導方針を確立する。	成果	小中合同研修会で京都府学力調査から見えるブロックの児童・生徒の強みや弱みを教職員で共有し、9年間を見据えた授業づくりについて検討することができた。また、小中一貫校開校に向けて、各分掌の実践や方針等について交流ができた。
			課題 (改善策)	小中9年間でそれぞれの発達段階があるが、9年間でどのような児童・生徒を育てたいか最上位目的を意識しながら、小中一貫校開校に向けて方針・取組等を決定していく必要がある。
到達目標 2	連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって	・通信の連携を進める。中学校の生徒指導通信を小学校に共有する。 ・中学校準備講座の実施。中学校入学への不安軽減を図るため、LCが小学校を訪問し、出前講座を実施する。 ・生徒指導交流会の実施。各校の生徒指導部長による事象報告や実態や指導内容の共有化を図る。	成果	ラーニングコーディネーターが学期に1回出前講座を行い、中学校の概要学習について生徒指導(ルール)について講義を行った。入学する上での不安、疑問解消につながった。
			課題 (改善策)	小中で児童・生徒の情報共有について、もう少し密にできれば、効果的な支援につながると思うので、その機会をつかっていきたい。また、各校の取組についても交流する必要がある。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	・小中合同研修会の充実。コーディネーター会議の実施。小中一貫校開校に向けて、ワーキンググループに分かれて取組内容や方針等の整理を行う。	成果	夏季合同研修会において、小中の9年間で教育効果を高めるための組織の在り方について昨年度の研修の振り返りを行い、会議の持ち方、同僚性を高めるために大切な考え方について再確認できた。また、コーディネーター会議、WG会議等を定期的に関き、支援の方向性などを共有できた。
			課題 (改善策)	小中の教職員で合意形成を図りながら、教職員が相互に理解する力をさらに高めていく必要がある。また、小中一貫校の開校に向けて、意思決定にスピード感が出る組織体制を検討する必要がある。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	・地域、保護者への啓発活動の充実。様々な取組を「小中一貫だより」のプリント配付やHP等で発信する。 ・地域懇談会の実施	成果	地域懇談会を実施して、保護者や地域の方から西小倉中ブロックの児童、生徒の強みや弱みを共有し、目指すべき方向性を考える機会とすることができた。学期に1回、4校CS合同研修会を実施し、開校時のCS強化に努めた。学期に1回広報誌を発行することができた。
			課題 (改善策)	小中一貫校の開校に向けて、学校評価アンケートを小中で合わせていくことや地域行事等の整理をしていくことが必要である。開校時の地域学校協働本部の組織づくりが喫緊の課題である。

令和6年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括」【西宇治中学校ブロック】

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	・6月に「学力充実」「生徒指導」「特別支援・教育相談」の領域部会に分かれ、中学校ブロックの課題や教育目標、めざす子ども像について共通認識を持った。また、各部で今年度重点的に話し合う内容について確認した。 ・8月の夏期合同研修では、「学力充実」「生徒指導」「特別支援・教育相談」の領域部会に分かれ、6月に引き続き各部会でテーマを設定し、交流・協議を行った。また、13の教科部会に分かれ、1学期の授業の様子や、ICTの有効活用法などを交流した。 ・10月は、西宇治中学校で公開授業と事後研究会を行い、西宇治中学校ブロックで統一した指導を行うための手立てや子どもの姿を共有した。 ・西宇治中学校合唱コンクールの動画を視聴し、中学校進学への見通しを持たせる一助とした。	成果	・「学力充実」「生徒指導」「特別支援・教育相談」で年に2回、テーマに沿って話し合うことで、お互いの学校の様子や課題、取組などを交流することができた。 ・教科部会を実施し、効果的な指導法やICTの有効活用法などを交流し、2学期からの指導にいかすことができた。 ・公開授業では、今年度西宇治中学校ブロックで意識した4つの「非認知能力」に焦点を当て、指導案を作成してもらえたことで、参観者の視点が明確になった。
			課題 (改善策)	・領域部会では、実態の交流はできたものの、新たに何かを生み出したり、西宇治中学校ブロックとしての方向性を確認したりすることに課題が見られた。次年度、部会の種類や話し合いの内容について検討したい。 ・4つの「非認知能力」については、項目や目標は掲げたものの、共通理解が不十分で具体的なアプローチも検討することができなかった。次年度継続して各校の「学びのパスポート」の結果とも関連付けながら、非認知能力の育成に努めたい。
到達目標 2	連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって	・中学校に入学してからの学習や生活に対する不安等を解消する目的で、6年生対象の部活動体験や学習説明会を実施し、中学校生活の見通しを持たせた。 ・小学校卒業後から中学校入学までの学力保障のため、統一した春休みの宿題を準備し、取り組ませる予定である。 ・学期に1回程度、小学校の児童会と中学校の生徒会が合同で朝のあいさつ運動を実施し、小中間での交流の場を設けた。	成果	・中学校体験入学で部活動を体験する機会や、入学前に学習の仕方について説明を受ける場を設けるとともに、春休みの期間を利用して統一した宿題を行わせることで、中学校での学習や生活に対する意識を高めることができた。
			課題 (改善策)	・あいさつ運動については、学期に1回小中合同で実施することができたが、小中の交流の方法として適切であるのか検討していかなければならない。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	・小中合同の研修会実施にあたり、ブロック校長会やコーディネーター会議等で事前の打ち合わせを行い、研修内容や組織体制についての検討をし、研修内容の充実を図った。 ・各領域の部長が事前に研修の方向性等について確認し、合同研修会をスムーズに実施できるようにした。	成果	・各校コーディネーターの連携を密にし、意見を出し合う中でスムーズな運営を行うことができた。 ・推進会議やコーディネーター会議、合同研修会等で実際に顔を合わせて交流することで、率直な意見が多く出て小中一貫の取組の推進を図ることができた。
			課題 (改善策)	・コーディネーター会議等の諸会議について、活動目的や内容をさらに明確化し、より計画的に実施することで、会議の効率を上げる必要がある。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	・広報紙発行の取組を継続するとともに、小中一貫教育啓発掲示板の有効活用、各校学校だよりのブロック内交流、各校HP上を工夫し、広く地域に発信し理解と支援を求める。 ・各地域行事、夏休みの「地域パトロール」、西宇治オープンフェスタ、中学校オープンスクール等々への積極的な参加を通して、地域との連携を図り支援や協働を得る。	成果	・小中合同研修会の開催や取組内容を、各校の学校通信やホームページ、懇談会等を通じて家庭や地域に知らせることができた。
			課題 (改善策)	・ブロックでの小中連携の取組が十分に伝えきれておらず、今後積極的に発信や啓発を行っていき、実施可能な取組についても考えていきたい。

令和6年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括」【南宇治中学校ブロック】

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと 学びのつながりに関わって	・夏季合同研修会を実施。「小中9年間で育てる認知・非認知能力～子どもと先生が元気になる学校づくり・小中一貫を通して～」をテーマとして、講師講演会、京都府学力・学習状況調査(学びのパスポート)の結果分析交流会を行った。	成果	・講演では、認知、非認知能力や「エンパワメント」に関する見識を深めた。 ・学びのパスポートの結果分析交流では、3校それぞれの分析の観点や抱える課題等を共有した。 ・3校の教職員全員で各校やブロック全体での課題について共通理解する機会となった。
			課題 (改善策)	・研修した内容等を日常の教育活動により活かしていくためには、ブロックとして学びのパスポートをどのように活用していくのか、何を重点に据えて、実践、分析、検証を進めていくのをより明確にする必要がある。
到達目標 2	連続性のある子ども理解と生徒 指導に関わって	・りかい部会で情報共有や事例研修を実施。「児童生徒に対する個別の支援」「児童生徒の意欲を高めるための取組」「特別支援学級、通級教室、いきいき支援」等についての交流と事例研修を通して「支援体制の構築方法やその在り方、外部機関との連携の重要性」について学ぶ場を設定した。 ・つながり部会でタブレット使用時のルールや校則の在り方等について交流。 ・国際教室担当教師の派遣による他校支援。 ・LCによる小学校出前授業	成果	・情報共有や事例研修によって、3校の現状について理解を深めた。 ・個に対する支援についての実践的な手法や、小中のスムーズな連携を実現するための動きについて検討した。 ・中学校卒業時の支援を報告し共有したり、効果的な就学支援の実践交流を行ったりした。
			課題 (改善策)	・交流した内容を実際の活動につなげていく姿勢が必要である。 ・帰国外国人児童生徒についての意識を高め、支援のための見識を広げながら自校での対応を想定した準備が求められる。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職 員の連携と協働に関わって	・年間4回の小中合同会議、3部会を実施。 ・まなび部会でICT機器の効果的な利活用について協議、実践交流等を実施。	成果	・部会のテーマに沿っての意見交換を通して、同僚性を高めた。 ・年度末のアンケート結果をもとに、次年度の体制や内容について十分に検討する機会を持てた。
			課題 (改善策)	・3部会での活動内容について議事録を作成して周知を試みたが、効果は低かった。部会での活動内容や研修内容をより広く共有できるような体制づくりが求められる。 ・各小学校の同学年担任の交流会を設定し、小小連携を促進する。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの 輪に関わって	・児童会生徒会を中心とした交流活動を実施。「年間3回の小中合同あいさつ運動と事前のオンライン会議」「地域清掃ボランティア活動」「中学校授業体験、部活動体験(6年生)」「中文拳の武術体験(各小学校の2年生)」「帰国外国人児童生徒理解学習(6年生)」を行った。	成果	・計画していた活動を全て実施し、児童生徒が直接交流する機会を多く持てた。 ・あいさつ運動や清掃ボランティア活動を、CSや育友会と連携した活動にすることで、地域との連携を含めた小中一貫教育の素地を作れた。
			課題 (改善策)	・つながりをさらに深めるため、小学校同学年同士の合同授業や行事の参観、総合的な学習の時間の交流など、日常的な交流の機会を増やす。

令和6年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括」【広野中学校ブロック】

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	・学園児童生徒の学力充実を目指し、学力部会を中心とした組織的な活動の実施 ・6年生を対象にした春休みの宿題や、「家庭学習の手引き」など、共通課題の作成 ・よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す「宇治学」の充実 ・3校の重点研修会を案内し合い、校内で研修内容を紹介し実践力を高める。 ・宇治市学力向上対策協議会によるスキルアッププログラムの実施	成果	・夏季合同研修会を実施し、時間を確保して各部の取組を検討することができた。特に学力部では各校の全国学力学習状況調査の分析を交流し、中学校ブロックの課題を見出すことができた。また各小学校の学年ごとに会議を設定し、具体的方策を共有し、2学期以降の取組に反映させることができた。 ・各校コーディネーターが担任と協力して児童生徒にスキルアッププログラムを取り組ませ、宇治市共通の学力課題を向上させることができた。 ・家庭学習の手引きや小6児童への春休みの宿題を作成、配布することができた。
			課題 (改善策)	・研究テーマとして掲げていた非認知能力の育成について検討する場を持てなかった。次年度は「効果ある宇治市方式を進めるアクションプラン」の重点取組である、4層区分のC層に着目した取組を、コーディネーターからの説明と提案を通し、夏季合同研修会で全体で検討したい。
到達目標 2	連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって	・3校の生徒指導の交流(8月・10月・1月) (問題事象の交流や傾向の分析など) ・少年補導地域懇談会での状況交流 ・HOT-MEETING(3校合同児童生徒会)の実施 ・福島ひまわりプロジェクトの実施 ・小6中学校体験学習や外国語活動での小小交流事業 ・中学1年生による小学校1年生への紙芝居読み聞かせ ・中学校部活動体験の実施 ・小学校職場体験学習での中学生による中学校紹介	成果	・中学校体験学習の際に小小交流ができ、中学校への期待が高まった。 ・紙芝居読み聞かせ交流を取り組むことによって、特に中学生が生き生きと紙芝居を読んだり、小学生に優しさを占めることができた。 ・児童会、生徒会の交流であるHOT-MEETINGを中心に、児童生徒が交流する事業が実施でき、活発な交流ができた。その中で福島ひまわりプロジェクトも学校全体の取組として各校で実施でき、プロジェクトに参画する意識を高めることができた。
			課題 (改善策)	・ホットミーティングでは、福島ひまわりプロジェクトの取組が形骸化しつつあり、それ以外の取組を検討する必要がある。 ・今年度も部活動体験は行うことができなかった。時期や実施方法を引き続き検討していく必要がある。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	・宇治ひろの学園総会の実施による小中一貫教育の取組周知 ・夏季合同研修の実施 ・大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施(授業研の交流と授業での交流) ・他校種研修での受け入れ(初任者)	成果	・総会や夏季合同研修会を通して各校の教員同士が交流でき、中学校ブロックの各取組への意識をより高めることができた。 ・小小連携での学年会議により、有効な手立てについて理解を深め、実践に生かされた。 ・各校の生徒指導の課題を交流し、児童生徒への理解を深めることができた。
			課題 (改善策)	・小学校から授業研の案内が出せなかった。次年度は案内をして授業を公開する機会を増やしたい。 ・さらに交流と協働研究を進め、一貫校としての繋がりの見える成果をめざす。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	・HOOP(宇治ひろの学園小中一貫教育だより)の保護者への配付 ・各校の学校だよりでの紹介やホームページの活用 ・3校巡回作品展示の保護者向け公開 ・小6の中学校体験学習の保護者参観	成果	・HOOP(宇治ひろの学園小中一貫教育だより)を3校の全児童生徒に配付できた。 ・様々な交流行事に関する紹介を、各校の学校だよりやホームページなどに掲載し、宇治ひろの学園の取組を保護者や地域に周知することができた。 ・適宜コーディネーター会議を実施することができた。またブロック校長会と連携して行うことにより、組織的な活動につなげることができた。 ・あいさつ運動は、PTAと連携して取り組むことができた。中学生が小学校であいさつをすることで、小学生があいさつをする意識を高めることができた。
			課題 (改善策)	・一部の担当教員のための取組となってしまうよう、教職員全体の共通認識のもとで活動を進められるよう情報共有を図る。

令和6年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括」【東宇治中学校ブロック】

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	・合同研究授業や相互授業参観を含む小中合同研修会の実施 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を積極的に進め、その中に、ことばの力を高める視点を加え、日常の授業や家庭学習、小中一貫教育の様々な取組と関連させ、生きて働く学力や生きる力を高めるための指導の充実・向上を図る。また、非認知能力と認知能力の一体的な育成・向上に向けた授業研究を進める。	成果	・小中合同研修会を年3回設定し、合同研究授業に関わる研修や本ブロック児童生徒の学力課題の共有、非認知能力と認知能力の一体的な育成・向上に向けた研修や協議などを実施した。 ・3小学校の各学級で、東宇治中学校コーディネーターが中学校生活や定期テストの話等の指導を行った。
			課題 (改善策)	・アクションプランの指標について、ブロックとしての分析を行い、本ブロック児童生徒の課題である「ことばの力」「主体的な学習態度」「対話的な深い学び」の充実と関連させた具体的な取組を進める。
到達目標 2	連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって	・専門部会の実施 ・学力面だけでなく、生徒指導部会、特別支援・教育相談部会を設定し、学校ごとの取組や児童の様子を交流するとともに、中学校へスムーズな接続ができるように一致した取組を進める。	成果	・第1回目の合同研修会では専門部会を開き、各校の学力や生徒指導、特別支援、教育相談の状況を交流し、ブロックの方向性を確認することができた。 ・中学校半日体験や花植ボランティア、中学生の美術作品交流など、様々な形態の児童生徒交流を進めることができた。 ・3小学校の6年生同士がオンラインで交流することで、中学校に向けてのスムーズな接続の一歩となった。
			課題 (改善策)	・3小1中で人数的にも地理的にも大きい規模での小中一貫教育となるので、部分的・間接的な交流も含めて、様々な取組を今後も模索し実施していく。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	・相互授業参観・合同研究授業 ・相互授業参観や合同研究授業を通して、教職員の連携と協働を進め、指導力を高める。 ・ブロックの小中学校の職員写真を職員室内に掲示することで、連携・協働を進めやすくする。	成果	・ブロック校長会と連携させながらコーディネーター会議を定期的に行い、取組の点検・評価を行いながら、取組の方向性や改善点を全体に提示し、小中一貫教育の目標に向けた取組を推進することができた。 ・今年度はブロック教頭会を実施することができ、各校の課題等を共有することができた。
			課題 (改善策)	・相互授業参観や合同授業研究等を計画的に実施することができたが、教職員同士の交流が会議での形式的なものだけとなってしまうので、気軽に交流できるような場の設定を模索していく。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	・小中一貫教育だより等による広報 ・家庭学習習慣・生活習慣の確立・充実の取組 ・小中一貫教育だよりを発行したり、各校の学校便り等で小中一貫教育の取組を紹介したりして、積極的に情報発信を行う。 ・ブロック共通の「家庭学習の手引き」の活用を進めながら、児童生徒の実態に応じた家庭学習習慣・生活習慣を高める取組を進める。	成果	・年間2回の小中一貫教育便りを発行したり、各校の学校便りで取組を発信したりすることができた。また、それらを掲示する小中一貫教育コーナーを各校に設置したり、HPを活用したりして情報発信に努めた。 ・「家庭学習の手引き」や「東宇治中スクールライフサポートブック」を配布し、家庭学習の充実をキーワードに、家庭との連携を深めることができた。
			課題 (改善策)	・本ブロック児童生徒の学力課題や学力の基盤となる生活課題に迫る、家庭・地域と連携した取組を模索していく。

令和6年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括」【木幡中学校ブロック】

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	【9年間を見通しての「ことばの力」の育成】 8つの教科部会(国語・生活・社会、算数・数学、生活・理科、音楽・美術・図工・家庭・技術、保健体育、外国語・英語、道徳)の協議、交流を通して、小中の系統的、継続的な指導を進める。	成果	C層の底上げを意識した授業づくりについて各教科部会で協議を行い、ブロックの中での9年間の「ことばの力」育成の方向性を整えることができた。
			課題 (改善策)	R - PDCAアンケートより、「ふりかえり」の活動について児童生徒の課題が見られた。めあての提示から授業の中で何を学んだかという点を一層子どもたちが考えられる授業づくりが求められる。
到達目標 2	連続性のある子ども理解と生徒指導に関わって	【切れ目のない生徒理解と小中が連携した生徒指導の推進】 3つの連絡会(学力充実いしずえ、児童生徒理解、健康安全)を通して、小中での生徒交流を深め、切れ目のない生徒指導・支援を推進する。	成果	各連絡部会を通して、切れ目のない子ども理解につなげることができた。5月や2月などの小中連絡会では小学6年生から中学1年生への進学に当たった情報の共有など行うことができた。
			課題 (改善策)	個別の支援を要するD層の児童・生徒だけでなく、見えにくい課題を持つC層の児童・生徒への理解がより一層求められる。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	【夏季小中合同研修】 特別支援教育をテーマとした講演を依頼。C層・D層の生徒理解や、効果的な指導や支援等についての理解を深める。 【ICTスキル交流】 各校のICTの利活用の工夫の交流を行い、教職員のスキルアップを目指す。	成果	インクルーシブ教育について研修を行い、C層・D層の子どもについての理解を深め、効果的な指導や支援について考えを深めることができた。 ICTスキルの交流では、具体的なアプリの使用例などを各教科部会で交流し、タブレット単発をいかに効果的に活用するか考えることができた。
			課題 (改善策)	個別最適な学び、協働的な学びの推進のためにも、教職員側の特別支援教育への理解や、ICT環境の効果的な利活用を一層推進していく必要がある。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	・地域交流の活性 おもろいやんか木幡への参加 ・HPの活用 HPに小中一貫教育の取組を掲載し、取組の啓発を図る。 ・保護者説明会 新入生保護者説明会などを通して小中一貫の取組について情報発信を行う。	成果	青少協主催の秋祭り「おもろいやんか木幡」の参加を通して地域との交流を深めることができた。 HPや保護者説明会を通して保護者や地域への情報発信を行うことができた。
			課題 (改善策)	ブロックとしての小中一貫教育の活動の地域への周知については不十分な課題がある。HPや通信などを活用し、ブロックとしての活動を一層発信していき、地域・保護者の理解を深める必要がある。

令和6年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括」【黄檗中学校ブロック】

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと 学びのつながりに関わって	【課題解決型学習】 ・各教科領域の学びをつなげる課題解決型学習の実施	成果	課題解決型学習の推進を目指した研究部を組織し、小中それぞれの校種で、課題解決型学習を進めることができた。
			課題 (改善策)	9年間を系統立てた課題解決型学習のプログラムが編成できていない。学園全体で課題解決型学習をより一層進めるために組織の再編を行う。各学年・領域の実践を整理する。
到達目標 2	連続性のある子ども理解と生徒 指導に関わって	【生徒指導】 ・9年間の継続的な生徒指導を進めるための課題共有(小中連携)	成果	小学校、中学校の生徒指導主任が連携し、事象・指導の共有ができた。
			課題 (改善策)	一貫性(9年間)を持たせることができていない約束やルールがある。お互いの校種の約束やルールを確認する場を設定する。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職 員の連携と協働に関わって	【小中連絡会】 ・小中連絡会の開催、小中の現状把握、相互理解 【小中合同夏季研】 ・表現力、データ活用能力の育成。学力分析の方法	成果	令和6年度版にブラッシュアップして小中連絡会を充実させることができた。小中合同の教科部会や領域部会を設定・開催できた。
			課題 (改善策)	小中合同では、校内授業研修ができなかった。年度初めに公開授業の予定を提案する。(研究推進部・学力充実部)
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの 輪に関わって	【コミュニティー・スクール】 ・計画的な学校運営協議会開催による小中一貫教育の状況確認 ・学園全体の取組の積極的な広報活動(ホームページ更新・メール配信等) ・各教科、クラブ活動等における学校ボランティアの活用	成果	学校運営協議会を定期的に行い、学校・地域の状況を交流できた。各教科、クラブ活動等における学校ボランティアの活用が増えた。
			課題 (改善策)	地域学校協働活動推進員(CSコーディネーター)の活動やボランティアでくださった方々の紹介等ができなかった。